八傳

Gôkan:(No. 016
Kanayomi Hakke
Part 3. BOOK 1

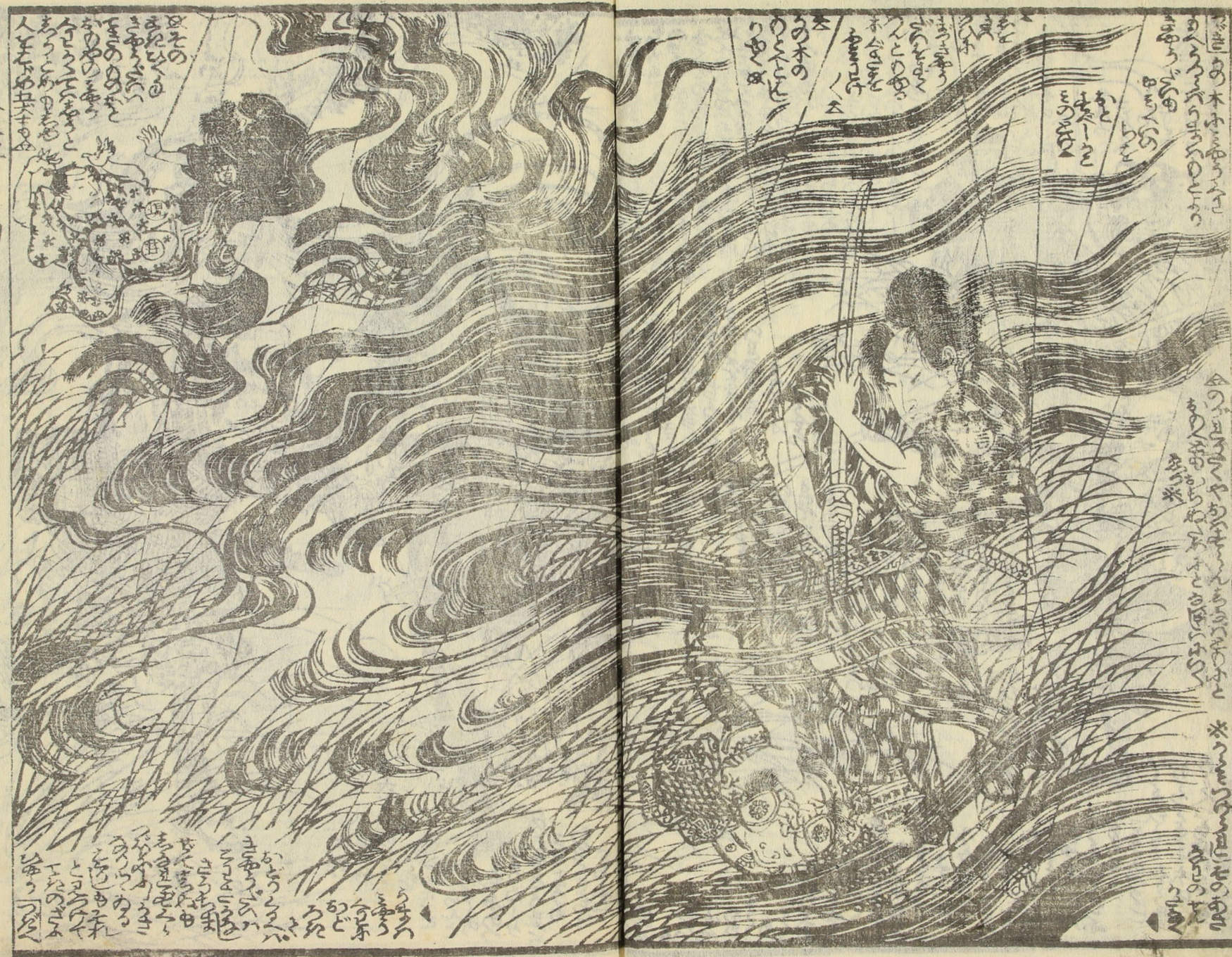
へ13
3701
13

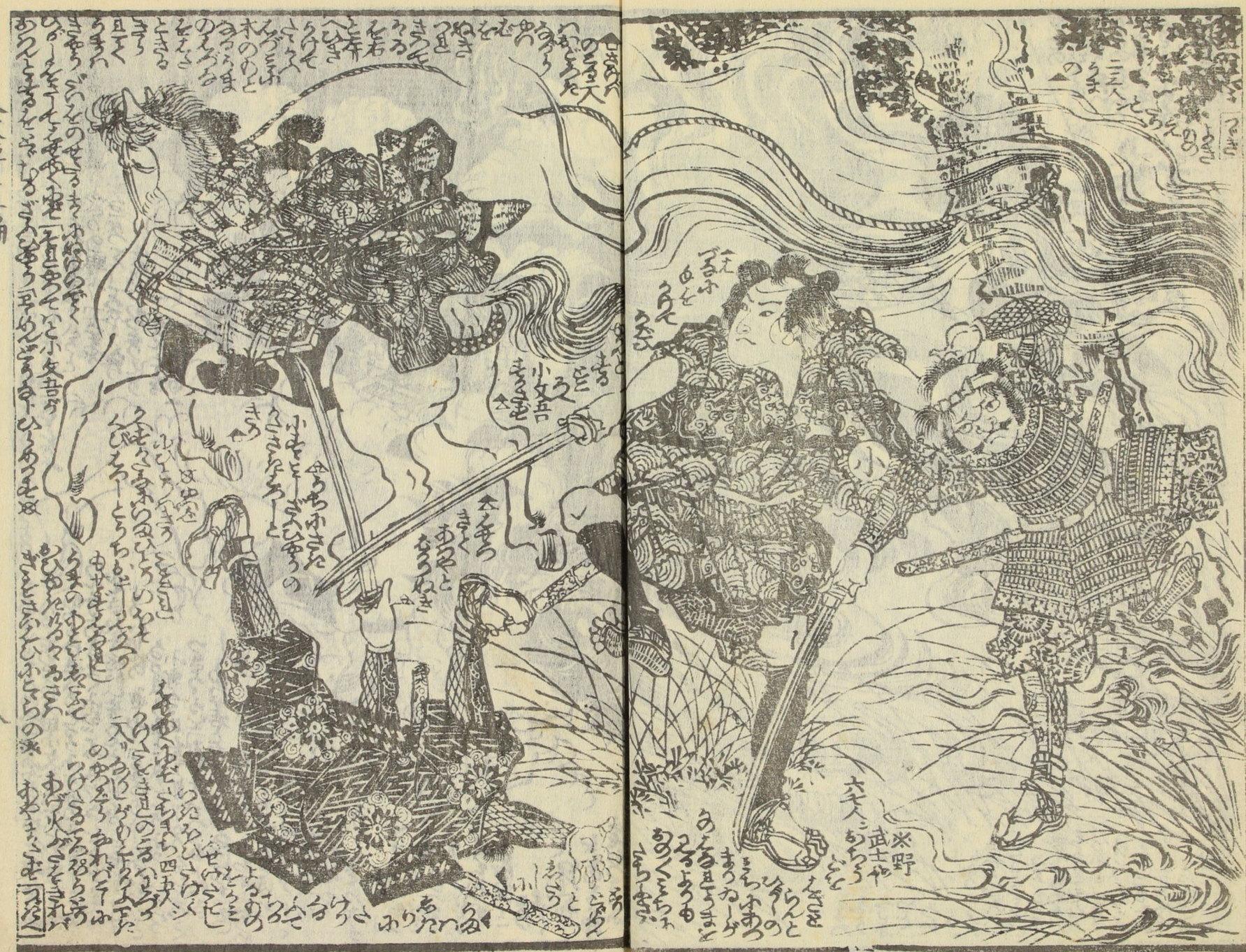
門へ13
號3701
巻13

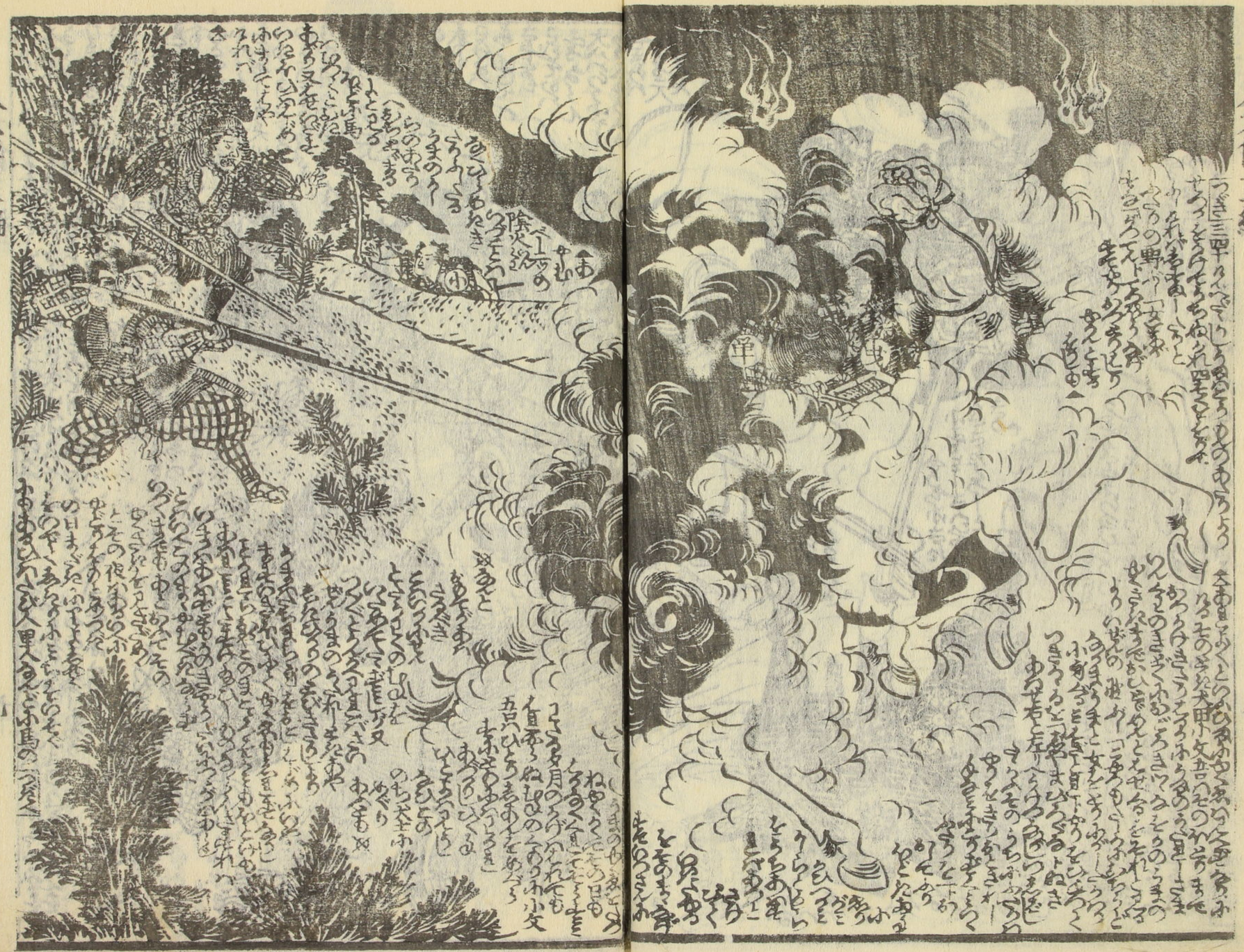
生著述者は生博学ふ綴まりさる。小冊を表題を假字読八犬傳と名付たる。
一時の戯墨なれども。伏姫富山ふ自殺ふ後ふ。其ふ姫口より飛び去りしあり。白氣
と倡ふ立消ふ。その玉ふ入て這策子を入跡ふ。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。

賊婦船虫
鷗尻の並四郎
一鎗戎刺過て
並四郎野猪汁
牙ハ掛ら支
本文ハ委し

世四郎
音







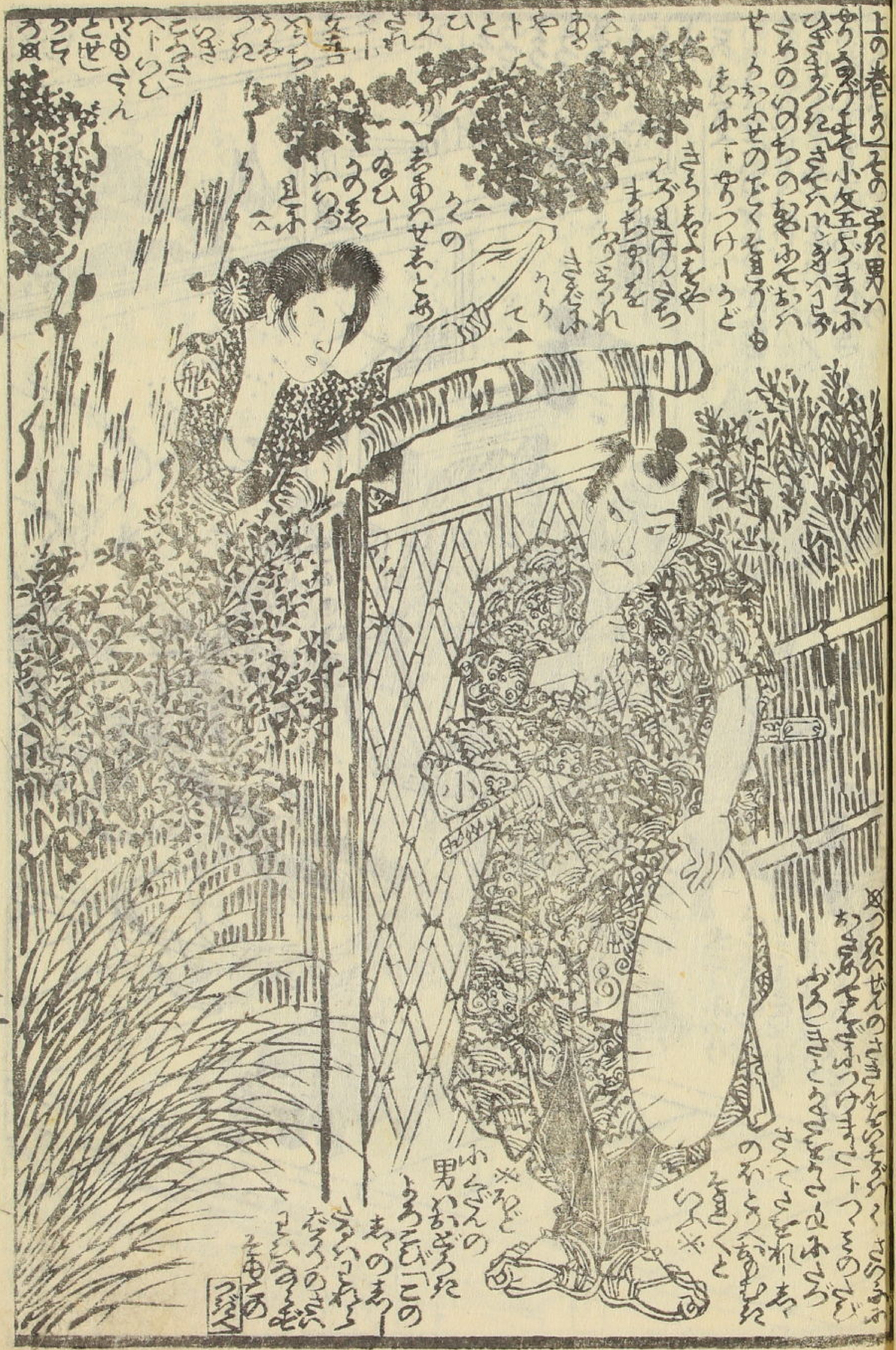
國芳画

儀名演八犬傳第十二編

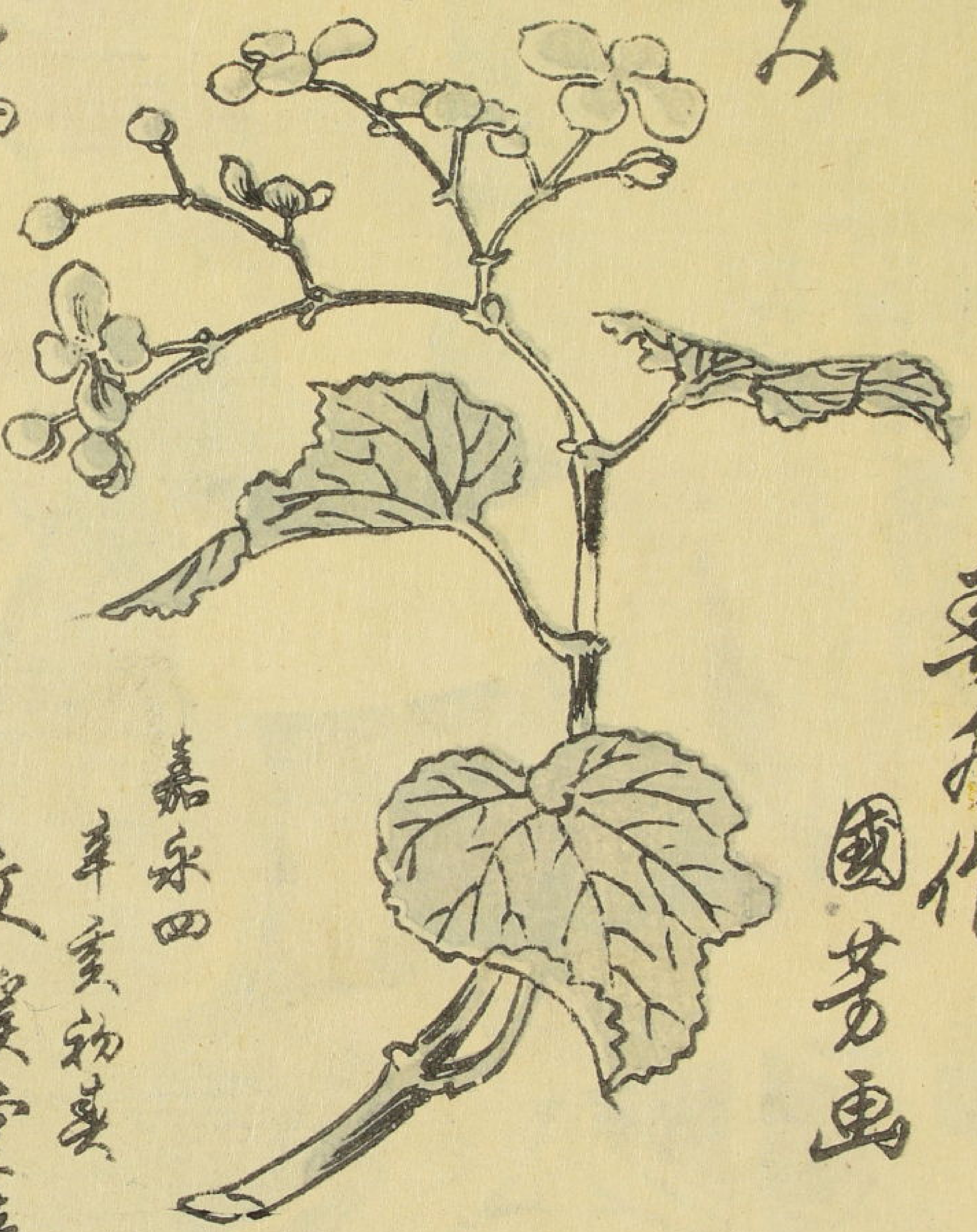
為永仙一勇齋画

辛未 文渡堂

為永春水作
一勇齋國芳画
南総里見八犬傳
十編
上
下



かなよみ
八けんでん
十三編



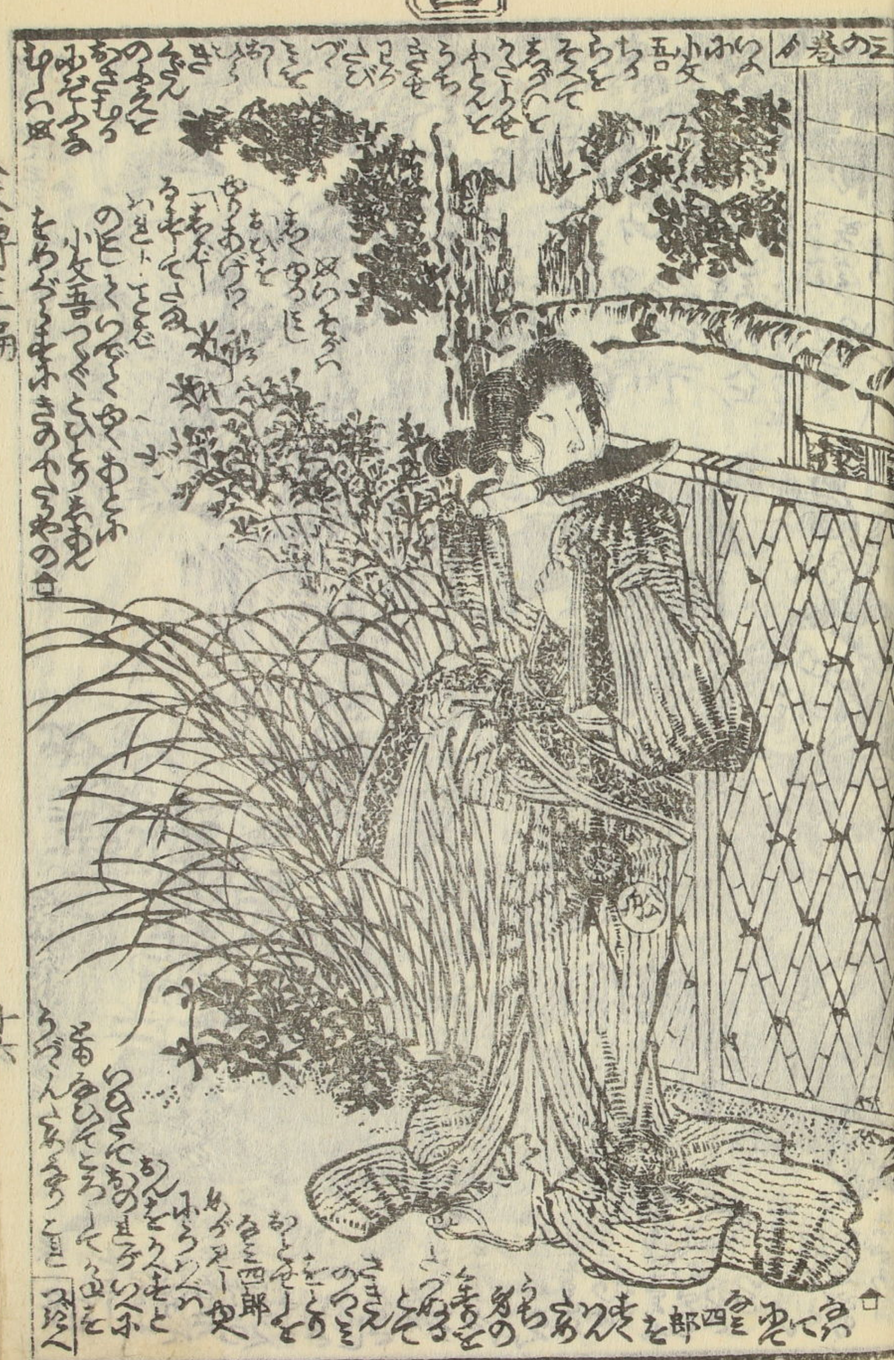
春水作
國芳画

嘉永四
辛亥初春
文渓堂梓

並
小

小
並

小
船
近



勇齋國芳画

初雪や犬社足跡梅の花こん誰々歟

う和らひ雪も予も
八房の梅の花

其足跡を
けんどうす。

鳥社跡あるいろは文字。假名
読草子ふ寫せども。梅の花ゐど
色香も白く。初雪ゐ〜を作文八淡雪
豆腐の淡々〜〜。ゑ八ゆ〜醤油の味淋酒。
足らぬゆ〜ゑと看官よ。ねりふ合ねと強つけて。
又ゆ〜ゐ社十四編まゞ後輯の仕込も
あれば。澤山ゆの人遊ゞをとの人

嘉永辛亥孟春發兒

為永春水誌

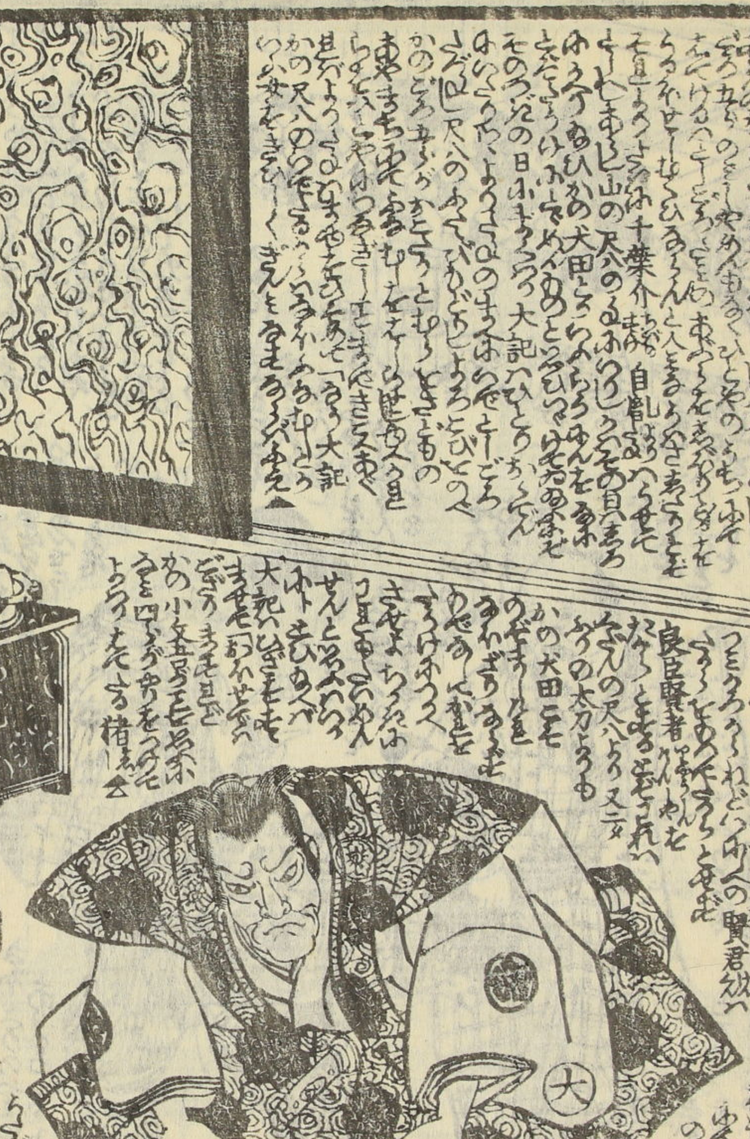
女田樂
豆腐角の野

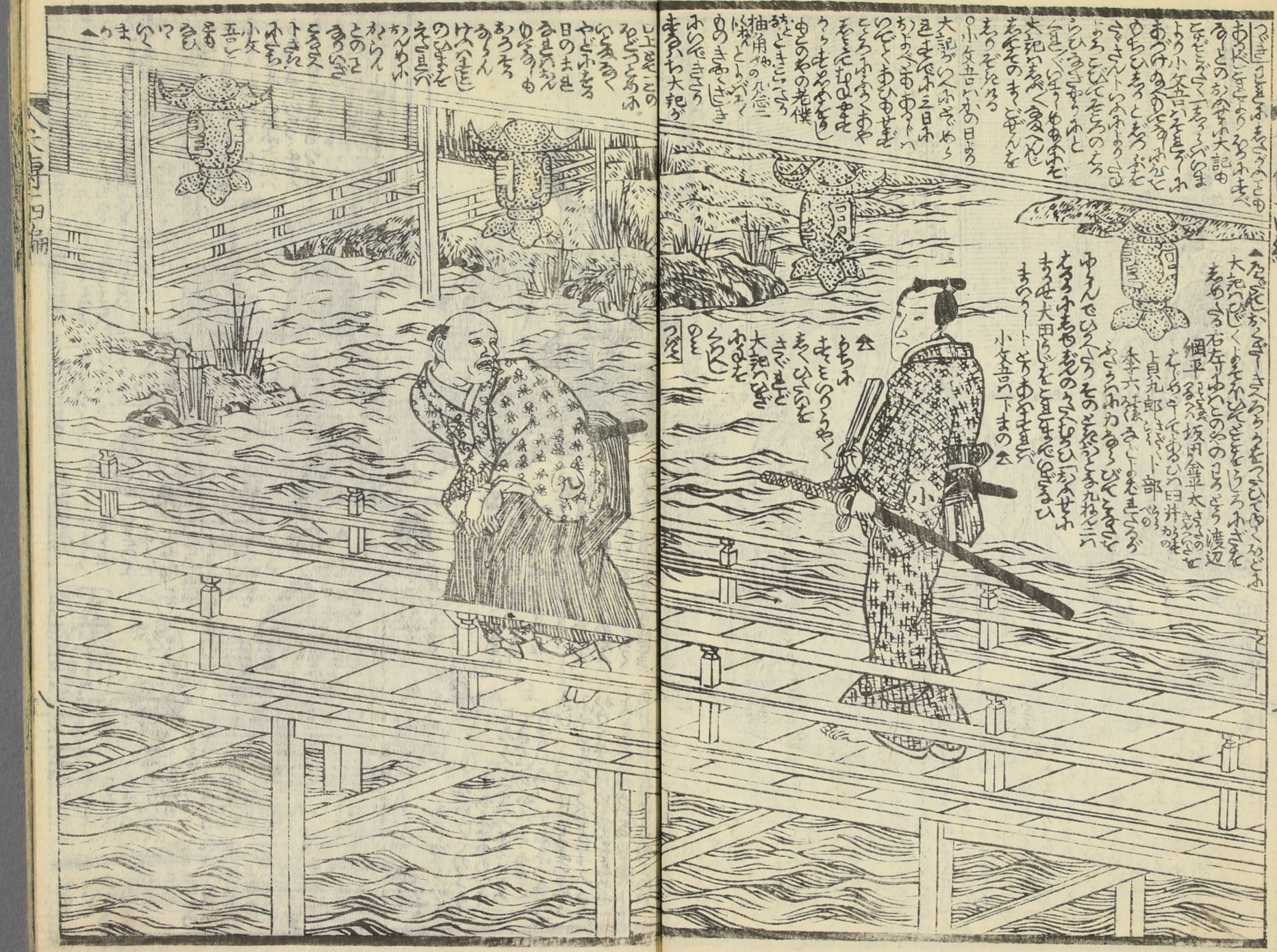
千葉介自乱
馬加大記常武
栗飯原首乱度

娘千枕
栗飯原夢之助
首ゝ妻稲城

語

自


大


小文吾八下まの

八代作一四ノ巻
八代目市川團十郎
大
小
貞
木子

小

國芳画

この度
今美
八百人
伝
十四編
上の巻
為永美丸作
一勇齋國芳画

文溪堂
壽梓

爲永春水作
一勇齋國芳画
かぶきの八犬傳十四
上巻
下巻

仮名讀

八犬傳

十四編

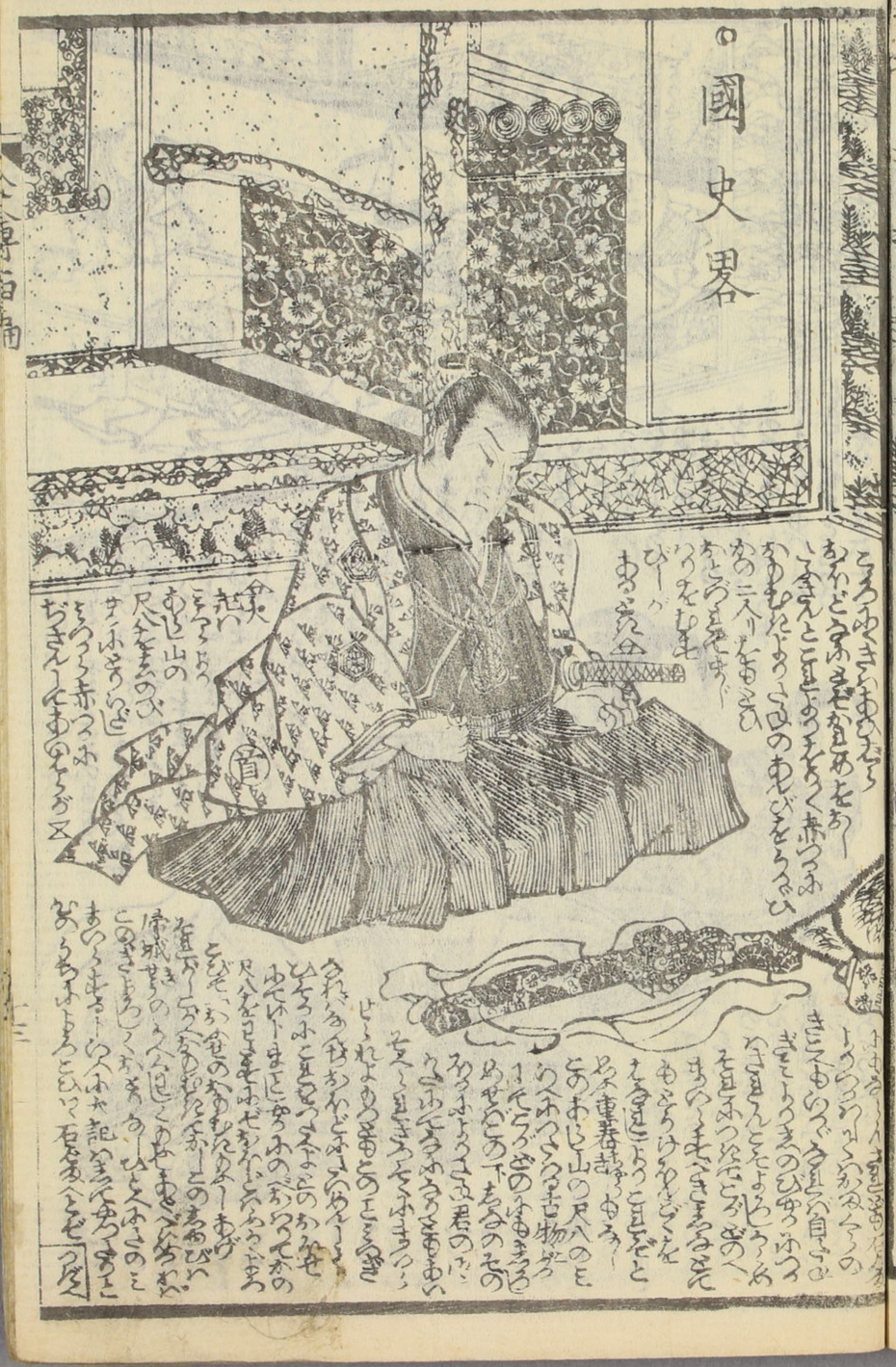
下の巻

美水作

國芳畫

文溪堂藏

千葉亂直が居城敗亡の圖支考本文は委しく是なり下の巻に姑且略出す物がたりと知るべし


國史畧

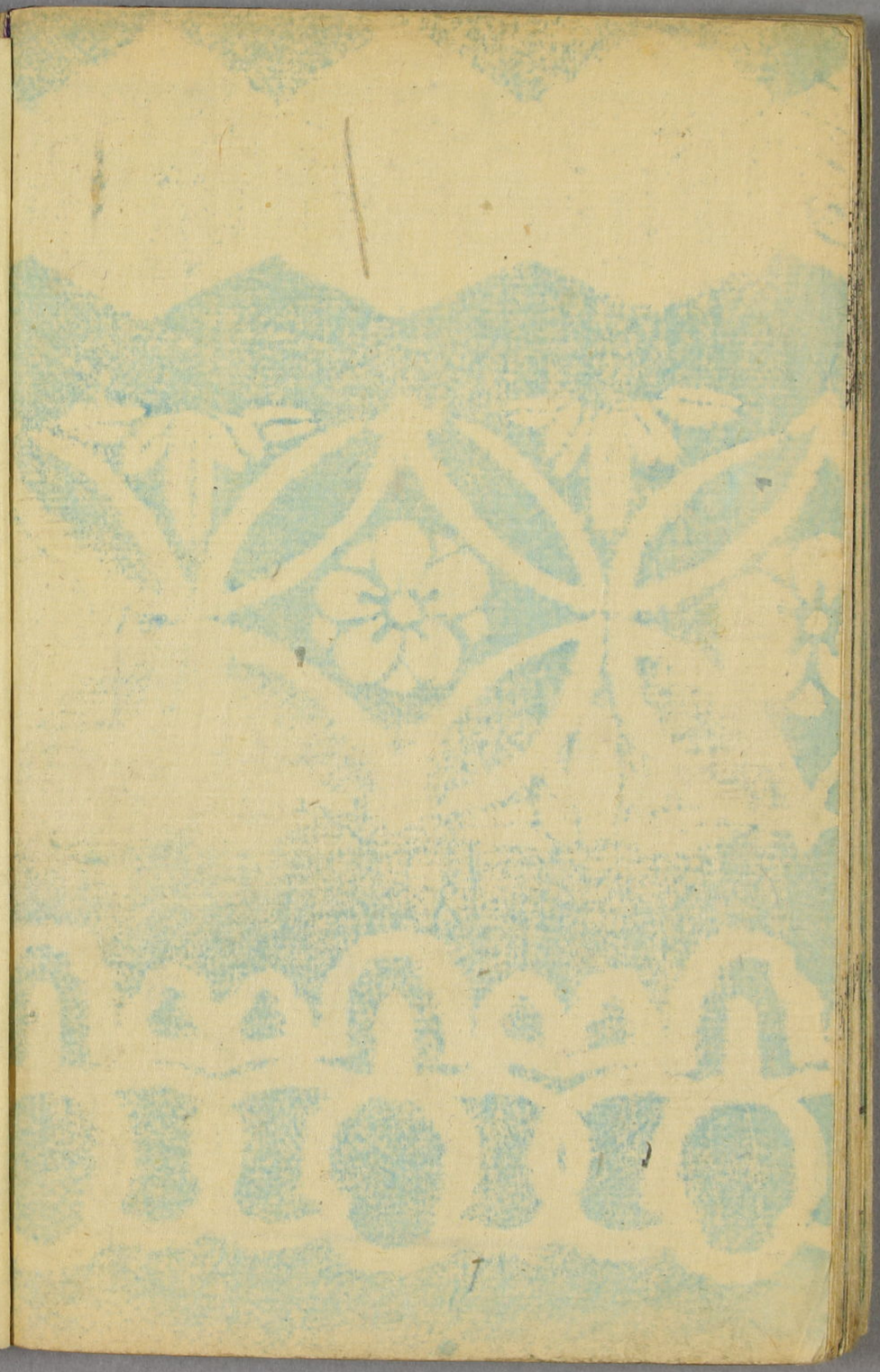
四
三のまき

金
銀

大記八百年を
つくしき
あれどゞ大

ちゝのり
ちゝのり

八犬傳十四編
夢
稲



八犬傳
十四篇
文政堂
一勇齋國芳畫